

2020年3月期 第2四半期
決算発表説明資料



2019年11月8日
エンシュウ株式会社
(東証一部 6218)

I. 連結決算概要

● 全社

(1) 全社経営成績

● 工作機械関連事業部門

(2) 地域別売上高・営業利益

(3) 地域別売上高比率

(4) 受注高・受注残高

● 輸送機器関連事業部門

(5) 経営成績

● 配当

(6) 配当方針・配当予想

II. 参考資料

● 四半期業績推移 連結

I. (1) 全社 経営成績

●2019年度 上期業績概要【増収・大幅増益】

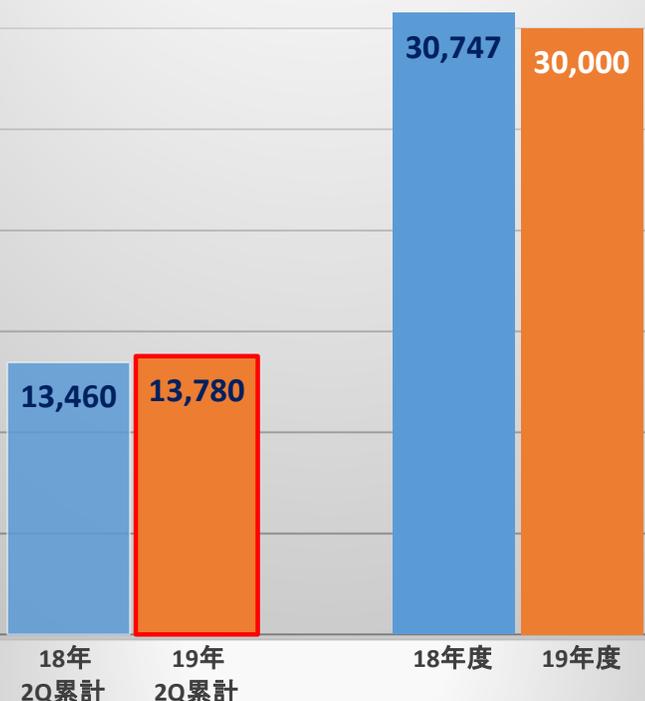
全社売上高は13,780百万円（前年同期比2.4%増）と増収
 営業利益は工作機械事業において原価低減の効果が上がったことにより、
 営業利益1,481百万円（前年同期比80.8%増）と大幅な増益

●2019年度 通期業績見通し【前期比 減収減益、公表 増益修正】

下期は工作機械業界の環境が厳しいこともあり、通期売上高は30,000百万円（前期比2.4%減）と減収見込み
 営業利益については、下期は工作機械事業の利益率低下が見込まれ、輸送機器関連事業が不調見通しであることから、営業利益2,400百万円（前期比7.7%減）の見込みであるが、原価低減効果により各利益は前回業績予想を上回り、最終利益はほぼ前年並みを予想

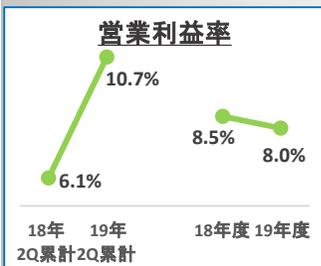
売上高

公表：30,500
 ※19年度は予測



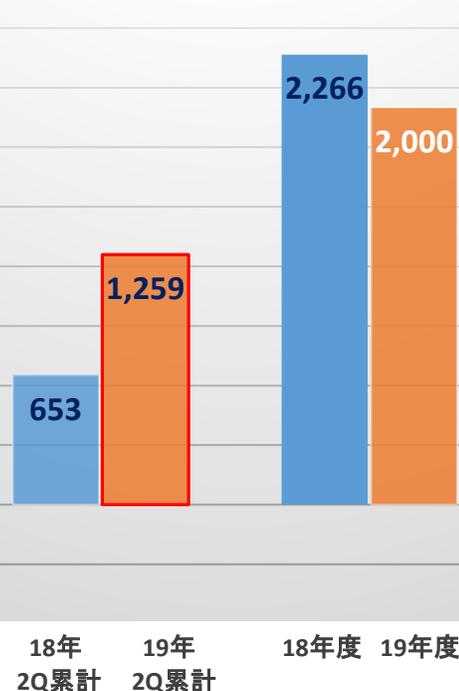
営業利益

公表：2,100



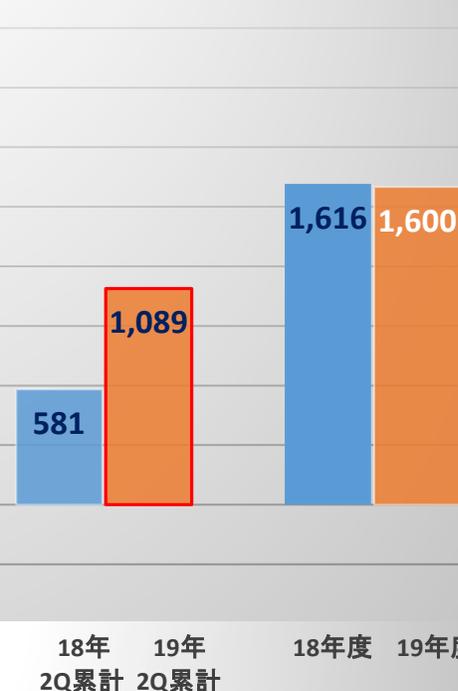
経常利益

公表：1,700



当期純利益

公表：1,300
 ※19年度は予測



I. (2) 工作機械関連事業部門 地域別売上高・営業利益

●2019年度 上期業績概要

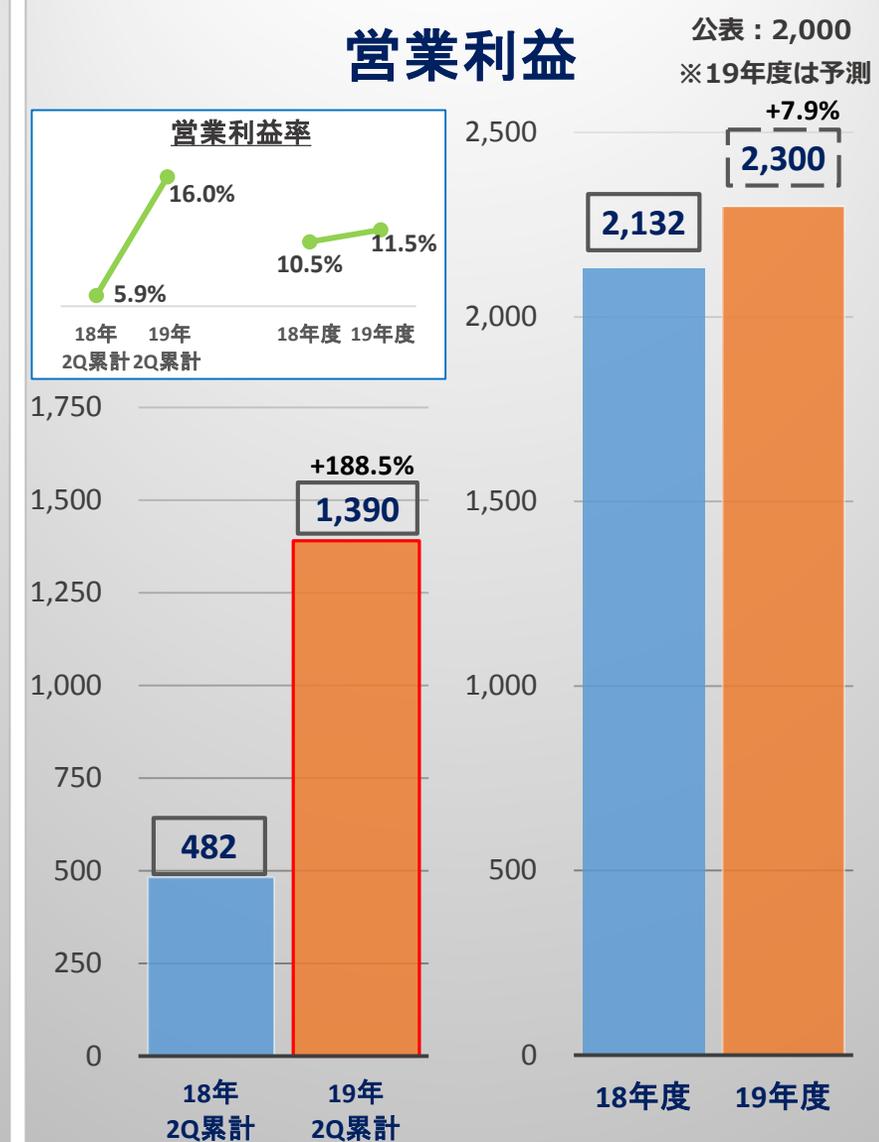
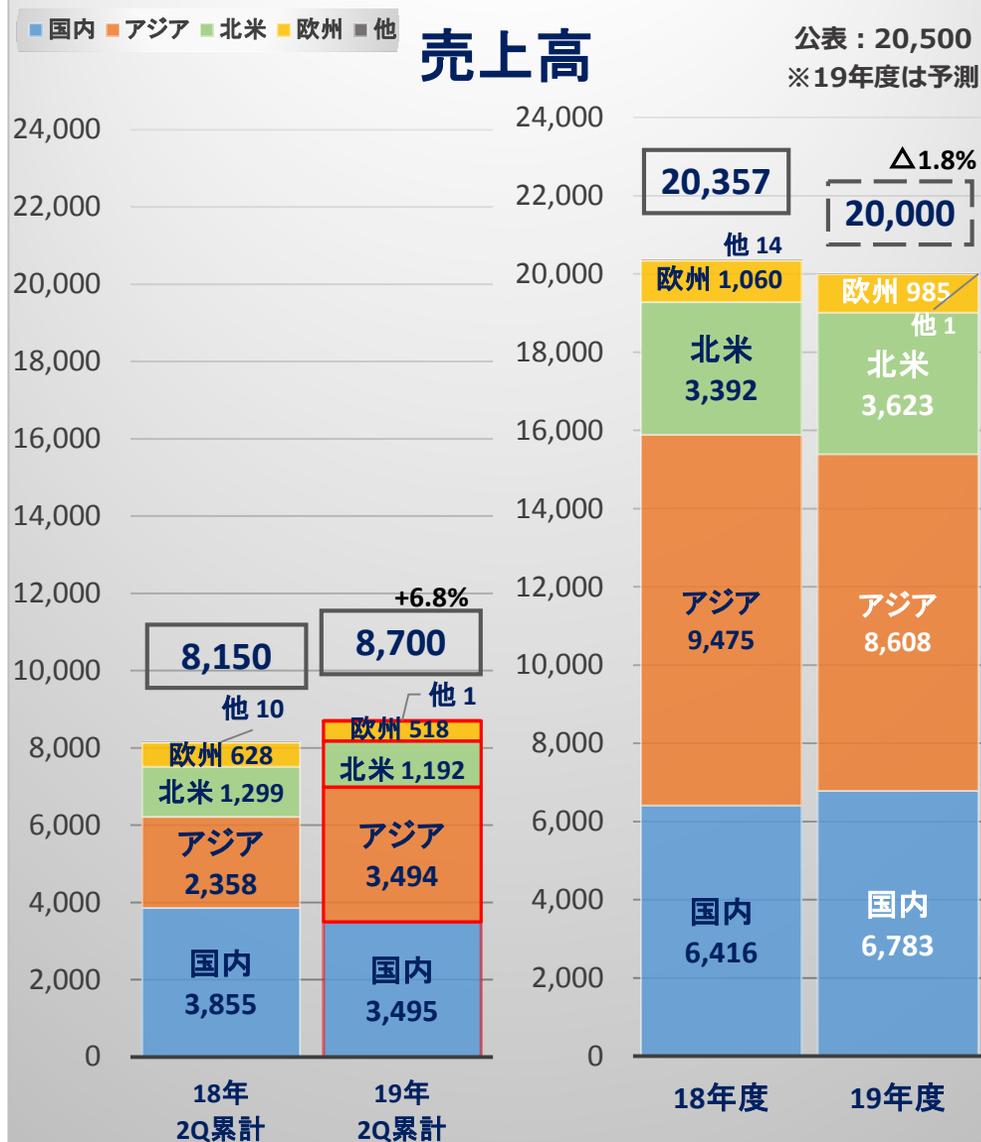
売上高については、アジアを中心に売上を伸ばし、売上高8,700百万円

損益面においては、案件毎に技術面での原価低減を徹底したことや、製造面での効率アップ等の施策を推進した効果により、営業利益1,390百万円となり大幅な増益

●2019年度 通期業績見通し

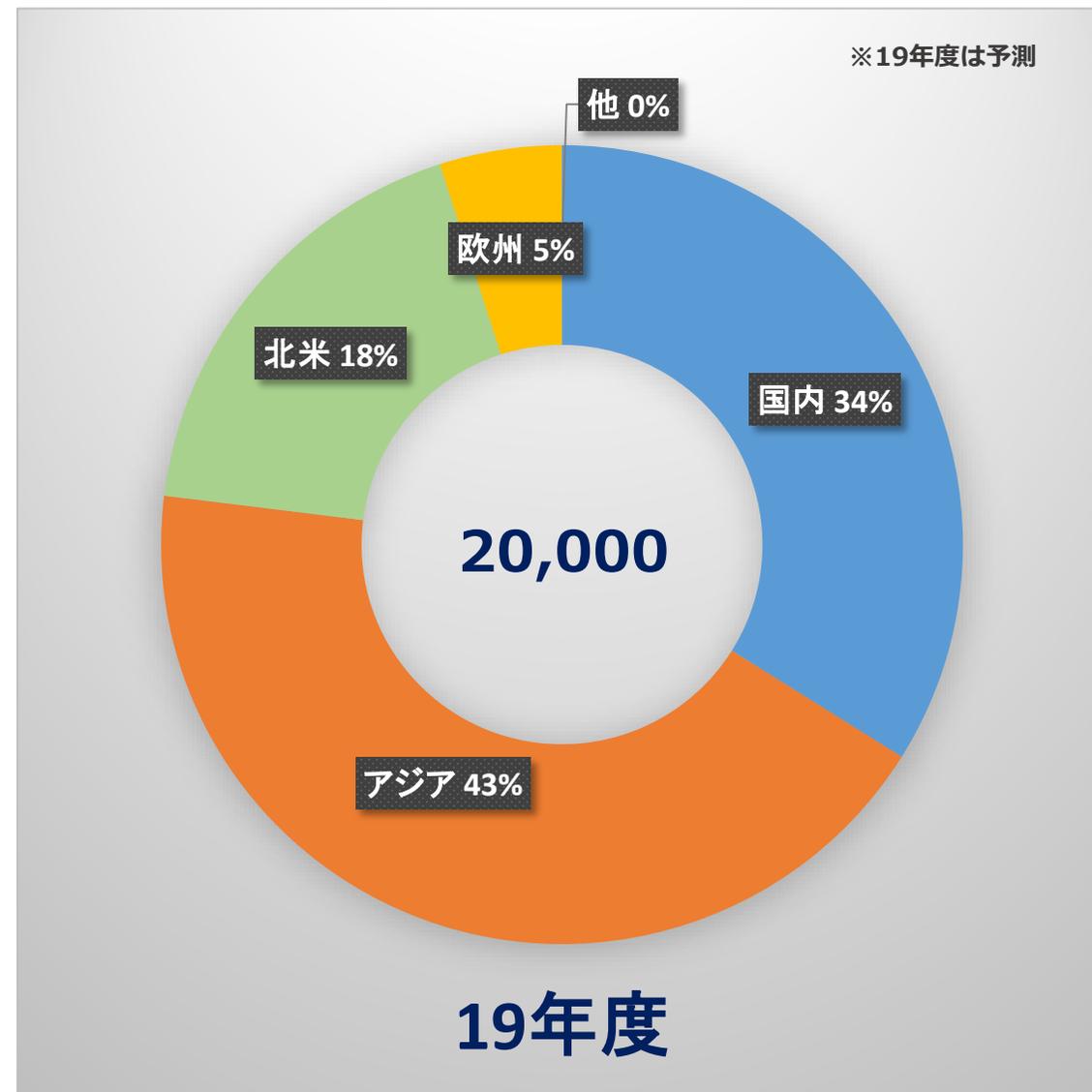
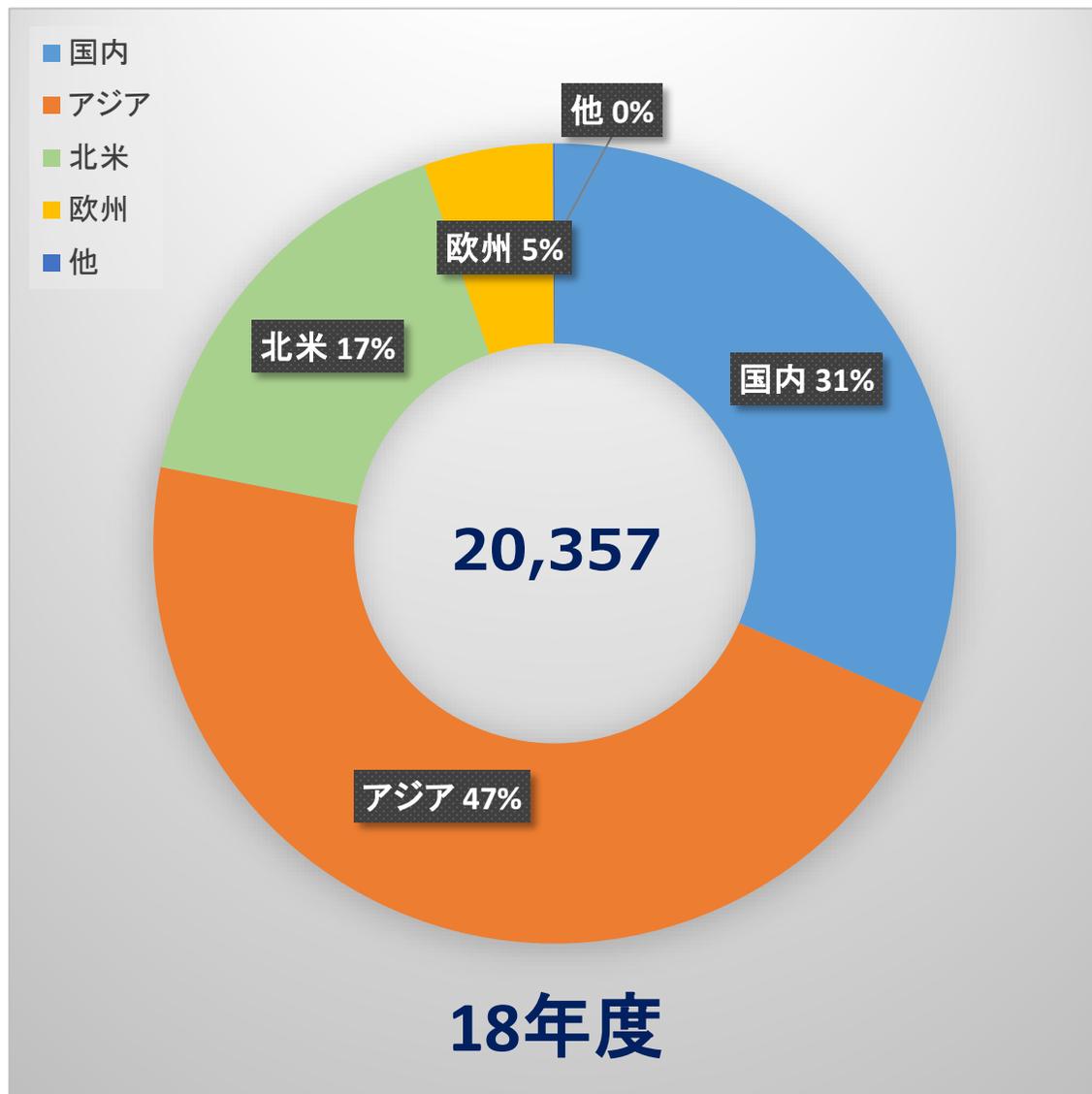
売上高は、国内および北米が堅調に推移するものの、中国が減少すると見込まれ20,000百万円と前期比減収見込み

損益面については、下期は環境が厳しくなっている中、利益率が減少する見込みではあるものの、収益改善施策により収益を向上することにより、営業利益2,300百万円を予想



I. (3) 工作機械関連事業部門 地域別売上高比率

(単位:百万円)



I. (4) 工作機械関連事業部門 受注高・受注残高

(単位:百万円)

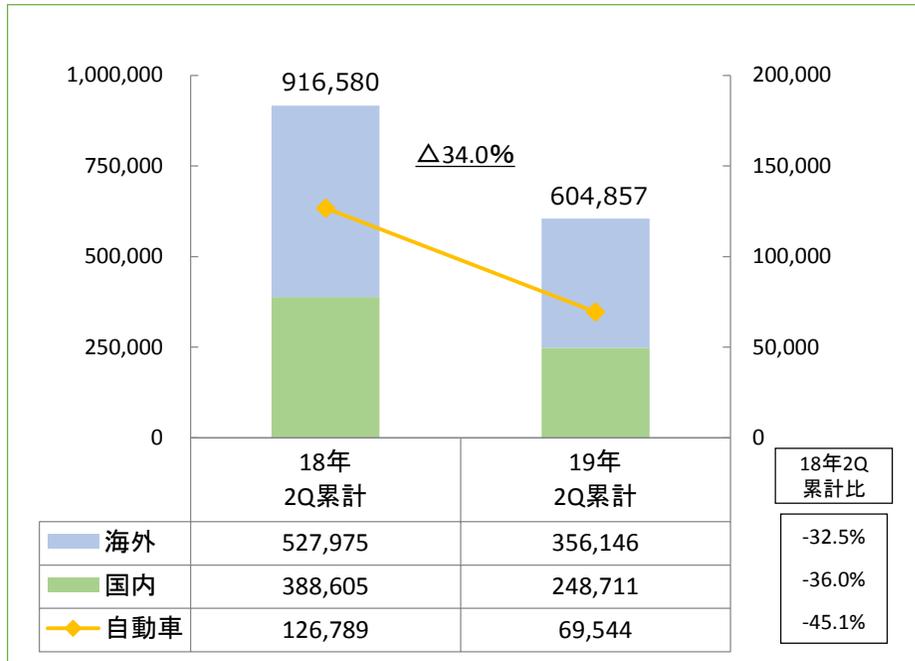
工作機械業界全体で受注が大きく落ち込んでいる中で、当社受注高は減少傾向ではあるものの、下げ幅は小さくなっている

今後についても厳しい受注環境が続くと考えられるが、十分な引合を確実に受注に結びつけ、売上を確保していく

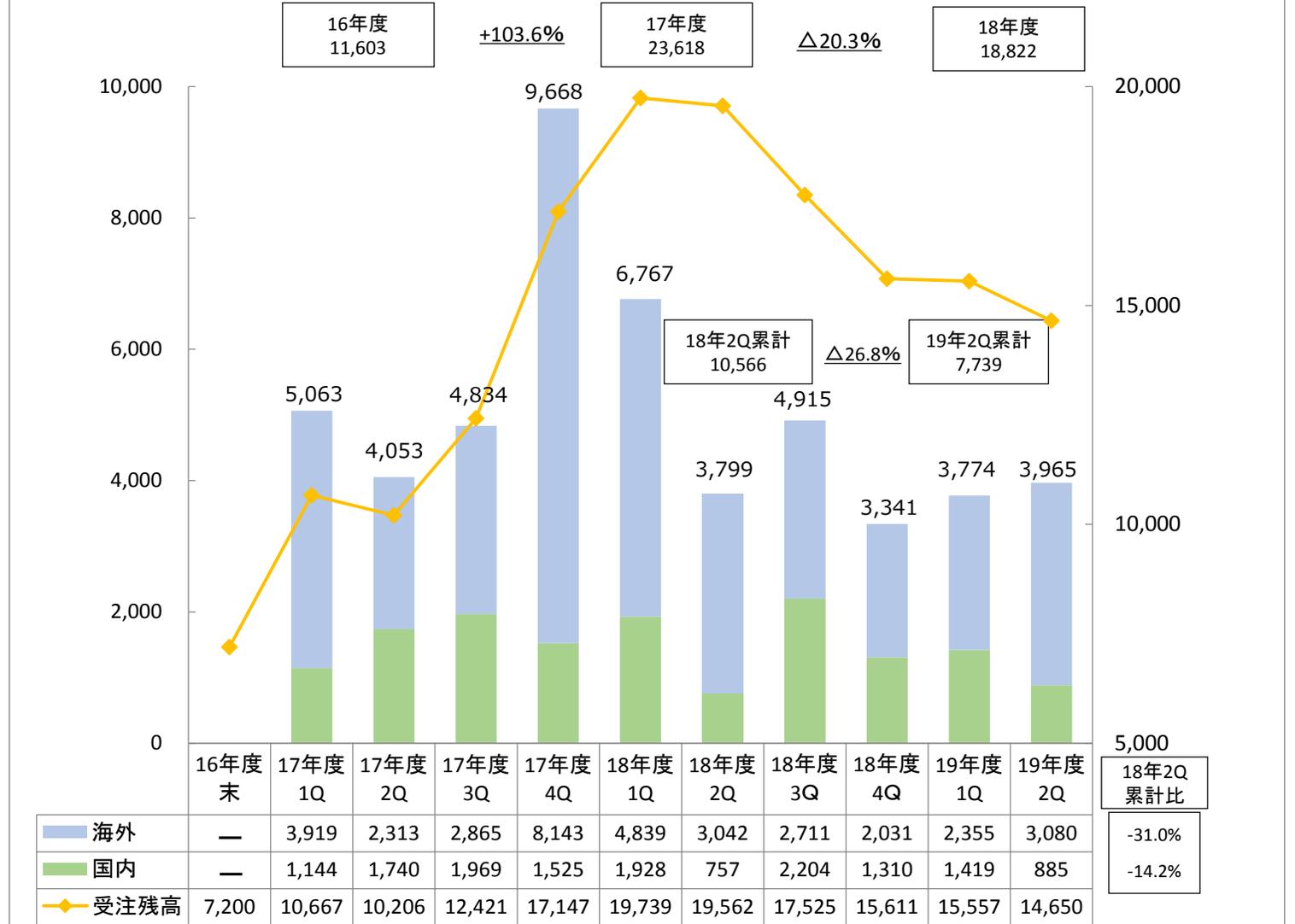
また不況下でも自動化投資は続いていくと見ている

当社の新製品であるE-Loaderは欧州の見本市EMO Hannoverや、メカトロテック ジャパンにてお客様より好評を得ており、市場の落ち込みを新製品で打ち返したいと考えている

☆日本工作機械工業会受注推移



☆当社の連結受注高及び連結受注残高推移



I. (5) 輸送機器関連事業部門 経営成績

●2019年度 上期業績概要

売上高については、国内海外ともに減少したことから5,044百万円と減収

営業利益については、固定費削減や生産性向上活動を継続したが、経費負担が重く営業利益64百万円

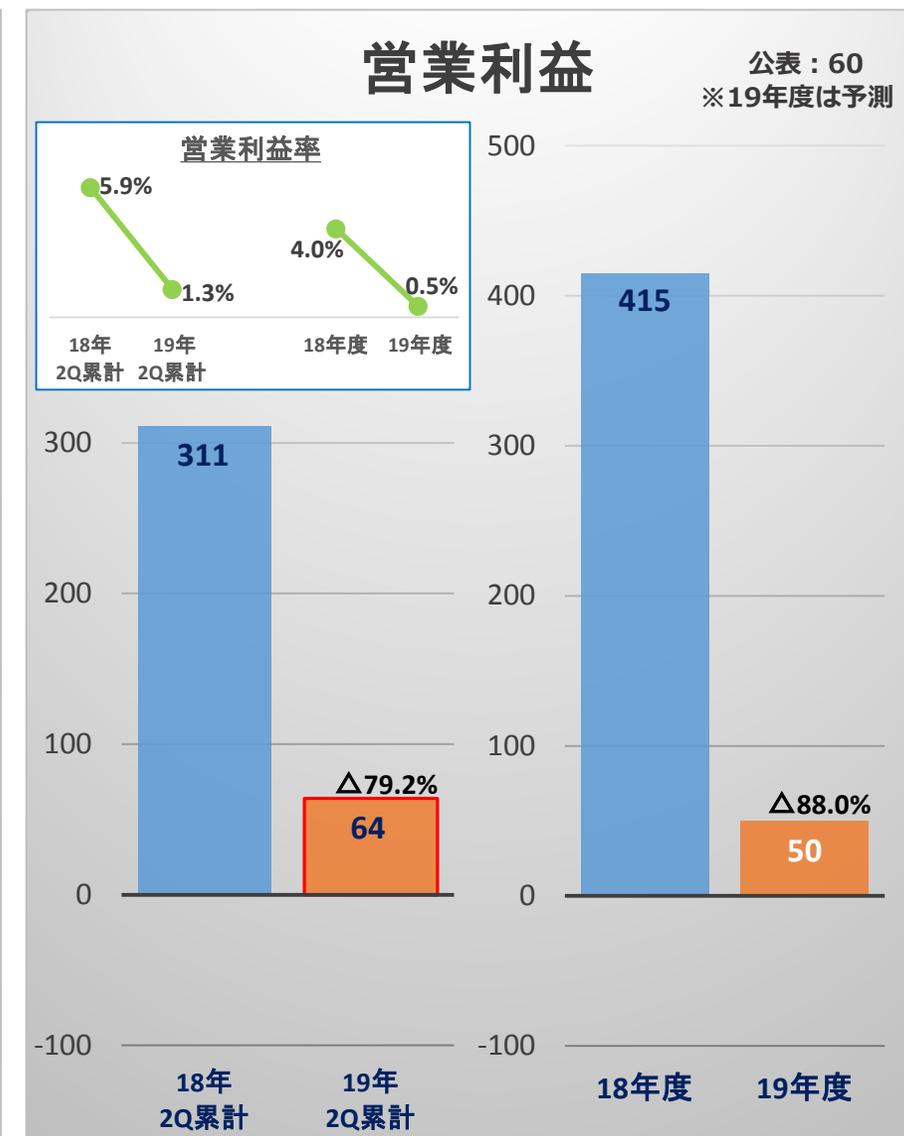
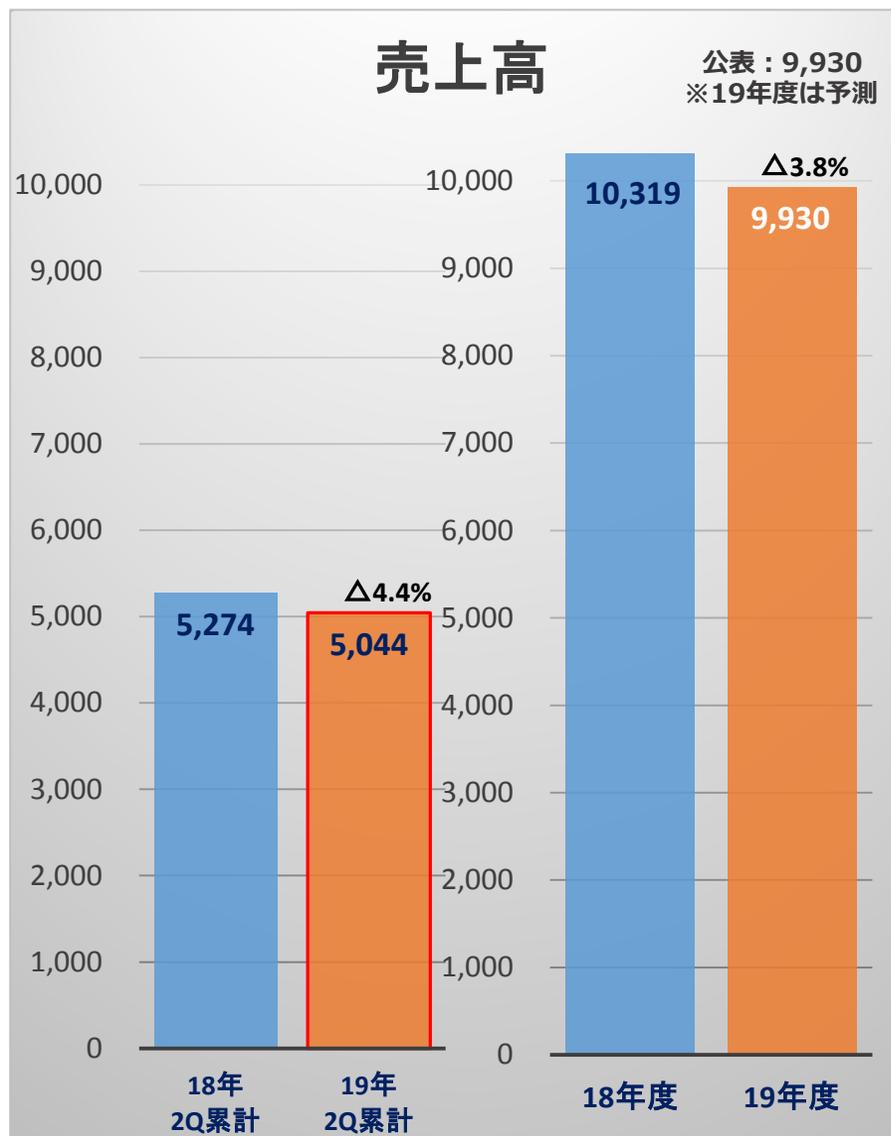
●2019年度 通期業績見通し

売上高については、ヤマハ発動機関連、四輪共に減少する見込みであり売上高9,930百万円を予想

営業利益についても、減収の影響と経費負担増加により、営業利益50百万円を予想

●2019年度 施策

工作機械事業の営業部門と一体となり、【エンシュウの強み】である自社で製造した機械を使用した加工事業（機械メーカーとユーザーの両側面）のアピールを行い、新規案件の受注に向けた営業活動を進めている



普通株式に係る年間配当予想(2019年3月期及び2020年3月期予想)

基準日		普通株式1株当たり配当金				
		第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2019年3月期 (復配)	普通配当	円 銭 -	円 銭 0.00	円 銭 -	円 銭 10.00	円 銭 10.00
2020年3月期 (予想)	普通配当	-	0.00	-	15.00	15.00
	記念配当	-	0.00	-	15.00	15.00
	合計	-	0.00	-	30.00	30.00

Ⅱ. (参考資料) 四半期業績推移 連結

(単位:百万円)

(累計期間)

						セグメント			
		売上高	営業利益	経常利益	純利益	工作機械関連 売上高	営業利益	輸送機器関連 売上高	営業利益
2017年3月期 (149期)	第1四半期	4,287	△ 161	△ 215	△ 229	1,775	△ 209	2,494	35
	上期	10,386	△ 170	△ 304	△ 340	5,158	△ 268	5,192	72
	第3四半期	14,363	△ 419	△ 576	△ 620	6,661	△ 694	7,648	236
	通期	20,846	△ 404	△ 726	△ 791	10,438	△ 850	10,337	394
2018年3月期 (150期)	第1四半期	4,150	△ 1	△ 34	△ 48	1,596	△ 162	2,536	148
	上期	11,110	444	315	280	6,110	127	4,964	290
	第3四半期	16,163	569	371	320	8,729	112	7,380	418
	通期	23,479	928	674	597	13,671	378	9,737	498
2019年3月期 (151期)	第1四半期	6,755	333	271	216	4,175	150	2,561	170
	上期	13,460	819	653	581	8,150	482	5,274	311
	第3四半期	23,047	1,902	1,661	1,049	15,101	1,445	7,892	418
	通期	30,747	2,599	2,266	1,616	20,357	2,132	10,319	415
2020年3月期 (152期)	第1四半期	6,314	655	577	504	3,828	659	2,467	△ 17
	上期	13,780	1,481	1,259	1,089	8,700	1,390	5,044	64



2020年2月

おかげさまでエンシュウは
創立100周年を迎えます

ENSHU
エンシュウ株式会社

本説明資料に記載いたしました業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、リスクや不確実性を含んでおります。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。実際の業績に影響を及ぼす可能性がある要因には、主要市場における経済状況及び製品需要の変動、為替相場の変動等が含まれます。